

学校教育目標	～挑戦・発信・錬磨～					
	○主体的に考え、伝える力と課題を解決する力を高める。【知】 ○人を思いやり、自分や周りを大切にすることを育てる。【徳】 ○様々なふれあいを通し、豊かな心と体を鍛える。【体・開】 ○社会の一員として、広い視野に立ったものの見方や考え方を身に付ける。【公・開】					
学校概要	創立 48 周年	学校長 内田 克弥	副校長 寺田 正直	3 学期制	一般学級: 13	個別支援学級: 3
	児童生徒数: 451 人		主な関係校: 希望ヶ丘小学校 善部小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	南希望が丘中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
○課題解決力・発信力・コミュニケーション力 (「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」) ○自己肯定感・協働・挑戦する気持ち (「学びに向かう力、人間性等」)	南希望が丘中 希望ヶ丘小 善部小	自分をとりまく人々と積極的に関わりを持ち、その中で自ら成長する子ども ・9年間のつながりを基盤に、生徒が意欲を持ち、相互に学び合う授業づくりを進める。 ・相互理解を深める機会を設定するために、小中合同授業研等を実施する。 ・子ども像を共有しながら、児童生徒指導や学習指導等の情報交換や共通理解を進める。

中期取組目標	○社会とのつながりを意識し、自ら課題を見つけ、その解決に向けて、他者と協働して、発信できる「学び」を充実させます。 ・1年目は、自らの考えを伝え合い、認め合う授業、行事等を推進します。 ・2年目は、生徒の思い、表現を大切にしながら、自らの意見を発信する場面を多く設けます。 ・3年目は、社会全体に目を向け、課題解決のために、他者と協働しながら、自分の考えを深め、自分の思いを的確に表現できるようにします。 ○学校、地域、家庭で連携して、生徒の自己肯定感・自己有用感を高め、何事にも自信をもって、挑戦する気持ちを育みます。 ・3年間を通して、一人ひとりが「価値のある」「必要で」「かけがえない」存在であることを実感し、個に応じた指導を充実させ、学校を自分らしく過ごせる「場」とします。
---------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①本校の実態、市の学状のデータに基づいた授業改善、授業力向上を目指す。生徒が自ら授業に参加し、自分の考えを発信できる授業になるようICT等を活用して生徒が自信をもって臨めるようにする。 ②放課後学び場事業の学習会を通して、個に応じた支援を充実させ、学力向上に努め、生徒の自己有用感を育む。
徳 人権教育	①小中ブロックで9年間を見通した人権教育を行うために、小中合同での人権に対する研修や各学校での取組の共有を図る。 ②道徳の授業前後の日常で子ども一人ひとりの成長の様子を見取り評価していくことを大事にし、学校教育目標や他教科との関連も意識し、授業改善に取り組む。 ③生徒会活動や委員会活動を通じて挨拶運動を積極的に行い、お互いに認め合う気持ちや主体的に挨拶ができる生徒を育成する。
体 健康安全教育	朝ご飯をしっかりと食べてきている生徒が多いが、水分を摂っていない生徒が多い。また、熱中症対策の呼びかけをするようにする等、健康・安全について主体的に実践できるよう、計画的に健康教育を実践する。
公 キャリア教育	①3年間を見通したキャリア教育(職業講話・職業体験・校内高校説明会等)の構築、実践を行う。 ②今の「学び」が「将来」と繋がっていることを生徒に意識させ、キャリア形成を進められるよう各教科での取組を進めていく。 ③3年間を通して、自らの生き方や考える力を高め、自己理解を深められるよう指導を進める。
開 ESDの推進	①SDGsの17の目標とのつながりを見つけ、知る・実践・振り返りを繰り返す。 ②生徒会活動全体だけでなく、各教科等でも実践を意識的に行っていくようにする。 ③多様な担い手と協働して活動し、成果を発信する。
いじめへの対応	学校独自で行う生活アンケートだけでなく、昨年度に引き続き、いじめアンケートが5月と12月にあるので、確実に困り感のある生徒に気づく体制を整える。また、いじめの早期発見、早期解決に努め、生徒の気持ちに寄り添い、壊滅に努めることで誰もが安心して学校生活が送れるようにする。
人材育成・組織運営(働き方)	各ステージごとにメンターチームを組織し、ステージ1と担当の職員を中心に、月に一度自主研修を実施する。特に経験の浅い教職員の育成に対して、全ての教職員がメンターチームの活動に積極的に参加することで経験の浅い教職員への関りを強め、指導力向上への取組を積極的に進める。
生徒指導	①生徒一人ひとりが安心して過ごせる学校にするために、生徒と話す場を増やし、生徒理解に努める。また、保護者との連携を密にし、生徒の特性に合わせた指導に努める。 ②委員会活動を通して、誰もが安全に安心して学校生活が送れるように学年を超えて意見交換ができ、自分の考えを発信できるように指導する。
特別支援教育	①困り感のある生徒、保護者への相談活動を行い、全教職員の理解のもと、組織として個に応じた対応をしていく。 ②教育のユニバーサルデザイン化を進める。 ③教室に入れない、長期欠席への対応のため特別支援教室を利用し自尊感情の回復、社会的自立を目指した取組を行う。
特別活動	①学活の時間での話し合い活動を充実させていく。 話し合い、実践、振り返りの3つのステップを意識して全学年で取り組んでいくようにする。 ②各委員会等で設定して目標を意識して、生徒主体の活動を多く取り入れていく。
地域学校協働活動	①地域活動協働本部を中心として地域との協働をより進め、地域より人選した学校地域コーディネーターと協力しながら、活動を活性化させる。 ②学校運営協議会を運営し、地域代表と話し合い、学校と地域が連携することの意義について、共通理解を図る。
担当	教育課程編成委員会 学校運営協議会